

令和2年度上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会

部会長・副部会長会議を開催しました



令和3年2月19日（金）18:30～20:00
Zoomによる部会長・副部会長会議を開催しました。コロナに始まった令和2年度。様々な工夫と知恵で部会活動を進めてきました。活動を振り返るとともに、次年度に向けた取組内容や思いを意見交換しました。

参加者：部会長・副部会長8名
在宅医療推進センター3名
事務局9名

※各部会の活動内容は、がんぎネットの各部会の報告書をご覧ください。《主な意見は次のとおりです》

入退院時連携推進部会

- ・入退院時の現状を部会内で共有できた。
- ・地域連携連絡票を記入する目的や活用促進に向けて研修会を実施していく必要がある。
- ・コロナ禍の入退院支援については、病院も在宅もコミュニケーションを工夫して情報共有をしていく必要がある。

対人援助スキルアップ部会

- ・対人援助についての学びを部会内で共有し深めることができた。今後どう広げていくか検討する。
- ・コロナ禍で入退院時に本人の意向が確認できない現状だが、本人中心を忘れてはならない。地域連携連絡票に思いをのせていきたい。

急変時対応部会

- ・急変時における実態調査を行うことができた。大変有意義な結果となった。
- ・調査結果の分析と取り組むべき内容の優先順位を決めていく必要がある。
- ・本人家族の意思表示、意向確認については、市民啓発部会や対人援助スキルアップ部会とも共有し、連動した取組を行っていく。

市民啓発部会

- ・啓発のターゲットを40～60歳代としたのは大変意味がある。親の介護やACPについて地道に周知していく必要がある。
- ・効果的に周知する方法を今後も検討する。
- ・ストーリー性のある内容を漫画など工夫していくことも大事。

★部会報告後、在宅医療推進センターの揚石センター長より、講評をいただきました。

- ・共通の目的意識を持ち、この取組はなぜ行っているのか、今どの位置にいるのかを確認することが必要。
- ・目標と現状・取組にギャップがあると思うが、それを3年間で実施していく。
- ・互いの立場を理解し、信頼と素直さを大切に協力し合う“多職種協働”をこの部会活動で実感しよう。

～揚石センター長から今年度の活動に対し感謝とねぎらいの言葉をいただきました～

★R3年度は5～6月頃に協議会を開催します。